様式1

平成３１年度　学校評価表

学校教育目標	心豊かにたくましく　共に学び伸びる「けやきっ子」の育成

a ミッション	・ICTの組織的・効果的な活用による，論理的に考え表現する力の育成	aビジョン **〇自ら考え学ぶ児童が育つ学校** **〇互いを認め合い，共に伸びる児童が育つ学校** **〇論理的に考え，表現できる児童が育つ学校** **〇教職員が育ち，その実践によって児童や保護者・地域の方々に信頼される学校**

尾道市立御調中央小学校

						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	担当者	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	k 二次評価 ロ	k 二次評価 ハ	l コメント	m 改善案
学校が楽しい　学ぶことが楽しい児童の育成（学びに向かう力の涵養）	主体的，対話的で深い学びの日常化と資質・能力の向上	「児童の疑問符が感嘆符にかわる授業つくり」の継続 （算数科・生活科・総合的な学習の時間）	〇日々の授業改善	標準学力調査（算数科） 全学年が全国平均点以上	教務	100		93	93	B	第6学年を除き，全国平均に到達できていない。基礎の力をしっかりと定着させた上で，活用問題の文章を読み解く力を育成する必要がある。	3			学力をつけることが学校の使命ではないかと思う。基礎の力とは何かを分析し，取り組むことが必要である。また，到達している学年の要因を分析し，他学年も展開していくとよい。	算数科で課題となったカを付けるためには，読み解く力，自分の考えを記述する力，基盤となる国語科の力を付けていく必要がある。「読み・書き・計算」といわれる基礎的なカを確実に定着できるよう，ミニテストを実施するなどスモールステップで実施していく。
				単元末テスト（算数科） ８０点以上	教務	80	64	75	94	B	単元にもよるが目標値に達する学年が増えてきた。一斉放送を取り入れたことでドリルタイムに全校で取り組めるようになった。マス計算やコグトレも取り入れたことで，繰り返し学習の徹底につながった。	2		1	くり返し学習で基礎学習が身に付いたと捉えられているが，日々の授業で子どもの学力をどれだけつけていったかが重要である。集中できる時間と空間を作り，くり返しやっていくしかない。1時間1時間の授業を大切にして取組を進めていってほしい。学級づくりと授業づくりを両立させることが重要である。	毎回の授業で教師が付けたい力を明確にもち，まとめと振り返りを確実に実施することが大事となる。ドリルタイムやミニテストで計算力等基礎・基本を身に付けさせていく。また一斉放送がなくとも自分たちで主体的にドリルタイムに取り組む等，学習規律の徹底を図る。
			〇授業構成 ・目標を具体的に決めての授業の実施 ・児童が学びたくなるような導入の工夫 【ICTの積極的な活用】	課題について，「なぜだろう」「やってみたい」と思う児童の割合	低学年	80	79	75	94	B	教師の日々の授業振り返りシートにおいても，導入の工夫には課題が見られる。ICTの授業導入部分での活用を積極的に行っていくことで改善を図る必要がある。	2		1	課題について「やってみたい」という割合が下がっているのが気になる。導入の工夫と併せて授業展開についても考えないといけないのではないか。先生方には，引き出しの数を増やし，質の向上を図るよう自己研鑽してほしい。低学年からのレベルアップを図ってもらいたい。	教師が単元の目標・見通しをしっかり見据えた上で，児童にも単元の見通しをもたせる。その上で，本時と前時のつながりや違いを考えさせ，それを本時の課題にする。また，児童の生活に即した問題を教科書の問題をもとに考えるなど，児童の興味がもてる問題提示をする。
			〇授業構成 ・多様な考えを引き出す発問の工夫 ・対話的で，協働的な学びの場の設定 （しっかりと自分の考えを書き，話す） 【ICTの積極的な活用】	ノートに自分の考えを書いた児童の割合	中学年	80	75	89	111	A	授業のなかで，効果的にタブレットを活用するなど，ペアやグループ学習を取り入れ協働的な場の設定を行ったことで，自分の考えを書くことができる児童が増えてきた。	2		1	タブレットの活用が児童の学習意欲につながったと考えられる。今後もタブレットを効果的に取り入れながら，授業のレベルアップを図っていってもらいたい。自分の考えを言ったり，振り返りを書いたりすることができないと，問題を処理していける大人にはなれない。	タブレットによる考えの共有や話し合いはこのまま継続して行っていく。さらに，ノートに書いた内容をどのようにして人に伝えるかを考えたり，タブレットを使った発表の仕方を工夫したりできるように，アウトプットの仕方にもこだわらせていく。
			〇授業構成 ・まとめ，ふり返りの確実な実施 （しっかりと自分の考えを書き，話す） 【ICTの積極的な活用】	授業が「楽しい」と言える児童の割合	高学年	80	83	94	118	A	概ね，目標値を超えて達成することができた。継続して生徒指導の三機能を意識した授業づくりを行っていく。	3			楽しい授業づくりをしていくことで目標値を超えることができたと考える。この結果が学力向上につながっていくことを期待する。知らなかったことを「知る」ことは，それだけで「楽しい」と思う。楽しい授業とは何かを問い続けていってほしい。	導入が工夫された授業を行い，児童の興味・関心を高めた状態をつくることで「楽しい授業」になることを意識する。さらに，「知る」ことができたものを振り返ることで，自分の成長を実感できるように，感想だけではなく，次の学びにつながる振り返りをすることができるようにしていく。
				自分の言葉でふり返りを書いた児童の割合	特別支援	80	72	83	104	A	振り返りを書くことは概ね定着したが，内容の充実を図る必要がある。発達段階に応じた振り返りの視点を明確にしていく必要がある。	2		1	振り返りを書くということだけで終わるのではなく，めあてに沿って書かれているか，自分の言葉で書いているか等，内容を評価をしていくことが必要なのではないか。振り返りの書き方の例を示す等，取組を進めていってほしい。	振り返りの書き方の例を示し，ノートに貼った型に沿って書かせる。授業後にもめあてを確認し,めあてに沿った振り返りとなるよう指導する。今日,新たに学習したことや今後の学びにつなげたいこと等を書かせる。
			〇児童が「学校が楽しい」と思える学級づくり ・学習規律の充実 ・朝の会，帰りの会の工夫 ・積極的な肯定的評価 ・学級活動等の充実 ・読書の充実	居心地点検結果，課題ゼロの児童の割合 （「学校が楽しい」と言える児童の割合）	養護教諭・栄養教諭	90	89	92	102	A	居心地点検の結果から，ほとんどの学級で目標値の90%に達していた。しかし，授業構成の項目で目標を達成できていない学級は，居心地点検でも70～80%の値となった。授業構成と関連付け，積極的な肯定的評価を意識し，目的意識をもたせて活動に当たらせることを通して，自己肯定感を高めていく。 １年生～３年生の数値がよくないことが多かった。細かなトラブルでも早期発見・解決をしていく必要がある。	1	1	1	高学年は，目的意識を持って取り組んでいると思われる。低学年については，学習規律をしっかりと身に付けさせ，学習の効果を上げるように取り組んでほしい。担任の力量によって，数値が下がるようでは困る。どの先生になっても安心して任せることができる学級をつくっていってほしい。「白紙」＝「居心地が良い」と判断するのではなく，学校や家庭で困っていることを３つ書いて下さいというように変えていけばいいのではないか。	・学習規律の充実を図るために，生徒指導の三機能を意識した授業づくりを行う。 ・学校全体で，児童に指導したり，徹底させたりすることを統一し，確実に行う。 ・学校全体，学級全体の場で褒めたり，個別に褒めたりするなど，積極的な肯定的評価を意識して取り入れる。 ・居心地点検だけで判断するのではなく，日頃の児童の様子や保護者との連携を行い，居心地点検だけではわからないことを見取っていく。

【自己評価　評価】
A：１００≦（目標達成）　　B：８０≦（ほぼ達成）＜１００
C：６０≦（もう少し）＜８０　　D：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。